温泉成分等のご案内

源泉名　　西方町いきいきロマンの湯
泉質　　ナトリウム－炭酸水素塩泉（弱アルカリ性低張性高温泉）
湧出方法　　動力揚湯

温泉1kg中の成分

泉温（分析時）　45℃　　水素イオン（pH値）　8.31

（1）陽イオン

成分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ナトリウムイオン（Na^+）	540.7	23.52	97.03
カリウムイオン（K^+）	7.1	0.18	0.75
マグネシウムイオン（Mg^{2+}）	1.7	0.14	0.58
カルシウムイオン（Ca^{2+}）	7.3	0.36	1.5
第一鉄イオン（Fe^{2+}）	0.9	0.03	0.13
マンガンイオン（Mn^{2+}）	0.1	0	0.01
陽イオン計	557.7	24.24	100

（2）陰イオン

成分	ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル% (mval%)
ふっ素イオン（F^-）	3.1	0.16	0.68
塩素イオン（Cl^-）	114.3	3.23	13.48
硫酸イオン（SO_4^{2-}）	179.8	3.74	15.64
炭酸水素イオン（HCO_3^-）	1024.5	16.79	70.15
硫化水素イオン（SO_4^{2-}）	0.3	0.01	0.04
陰イオン計	1322.1	23.93	100

（3）遊離成分

ア、非解離成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
メタけい酸（H_2SiO_3）	36.4	0.47
メタホウ酸（HBO_2）	10.4	0.24
非解離成分計	46.8	0.7

イ、溶存ガス成分

成分	ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)
遊離二酸化炭素（CO_2）（遊離炭酸）	8.6	0.2
遊離硫化水素（H_2S）	0	0
溶存ガス成分計	8.6	0.2

（4）その他の微量成分

総水銀　/　0　　カドミウムイオン　/　0　　鉛イオン　/　0
総ヒ素　/　0　　クロムイオン　/　0　　銅イオン　/　0

登録分析機関の名称　/ 一般財団法人　栃木県薬剤師会　　登録年月日と番号　/　平成25年8月22日　14栃薬1号

入浴を控えた方が良い疾患及び症状

急性疾患（特に熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、
出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患

入浴するとよい疾患及び症状

きりきず、やけど、慢性皮膚病、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、
慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進

浴用の一般的注意事項

ア　温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を一日当たり一回程度とする。
　その後は一日当たり二回ないし三回までとする事。
イ　温泉療養のための必要期間は、おおむね二ないし三週間を適当とする事。
ウ　温泉療養開始後おおむね三日ないし一週間前後に湯あたり（湯さわり又は浴湯反応）があらわれることがある。
　「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。
エ　以上のほか、入浴については次の諸点について注意する事。
（ア）入浴時間は、入浴温度により異なるが、初めは三分ないし十分程度とし、慣れるにしたがって延長してもよい。
（イ）入浴中は運動浴の場合は別として一般には安静を守る。
（ウ）入浴後は身体に付着した温泉の成分を洗い流さない（湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後、真水で身体を洗うか、
　温泉成分を拭き取るのがよい）
（エ）入浴後は湯冷めに注意して、一定時間の安静を守る。
（オ）次の疾患については、原則として高温浴（42℃以上）を禁忌とする。
　1、硬度の動脈硬化症　　2、高血圧症　　3、心臓病
（カ）熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意する。
（キ）食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。　　（ク）飲酒しての入浴は特に注意する。
※　温泉の禁忌症、適応症については、専門知識を有する医師の意見を参考にすることが望ましい。